

県立中部病院

症例4

1、細胞診判定：（腫瘍性病変）悪性度不明な腫瘍（SUMP）

※当院では、耳下腺の穿刺吸引細胞診の判定において、現在はまだミラノシステムを使用しておらず、判定には以下の判定区分を使用しておりこのように判定しました。

・採取材料について

適正 不適正

・細胞判定

normal or benign

indeterminate

suspicious

suspicious for malignancy

malignancy

2、組織診断：多形腺腫

1、細胞診所見

血性背景に、上皮性結合を示す大型集塊が見られた。集塊は、血管増生を伴って樹枝状ないし乳頭状構造を呈していた。集塊を構成する個々の細胞は、大部分が小型類円形の細胞だが、一部に核形不整を伴う異型細胞や、また核内細胞質封入体が観察された。背景に粘液や壊死物質などは認められない。

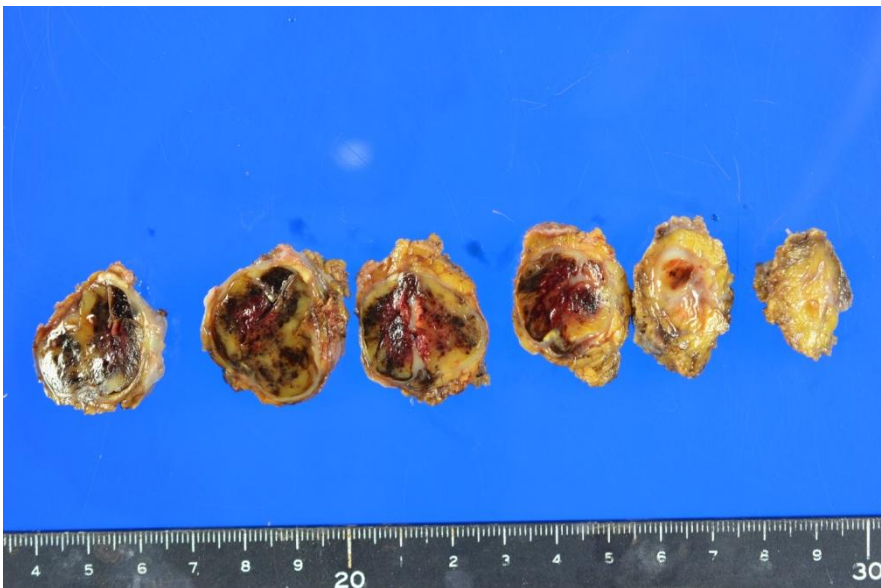
以上の所見より、組織型推定および良悪の鑑別が困難であり、細胞判定を

Indeterminate / (腫瘍性病変) 悪性度不明な腫瘍
(SUMP)

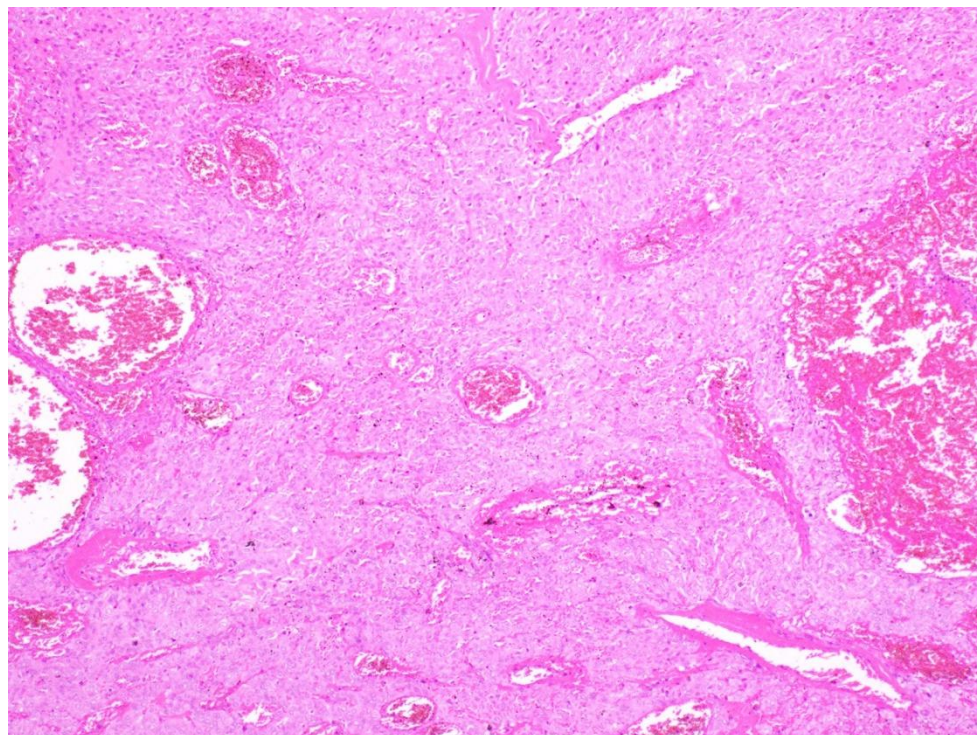
とした。

2、組織診断

多形腺腫



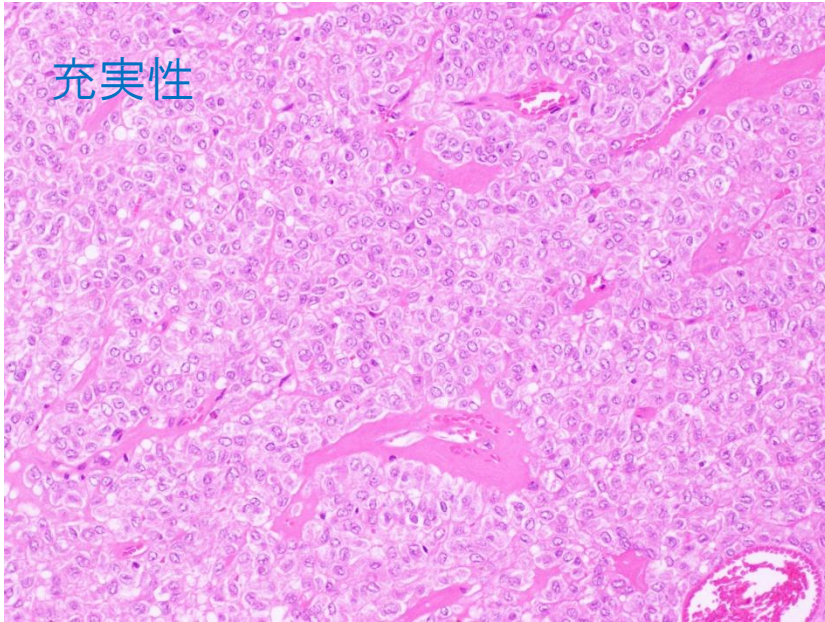
腫瘍本体：3 x 3 x 2cm



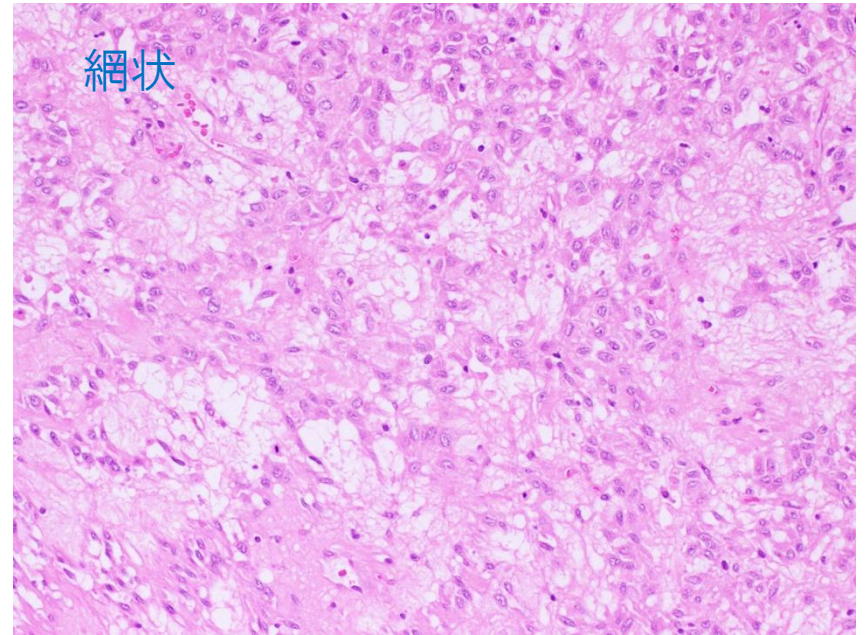
肉眼的には、被膜に覆われた境界明瞭な淡黄色病変で、出血を見る。

組織像

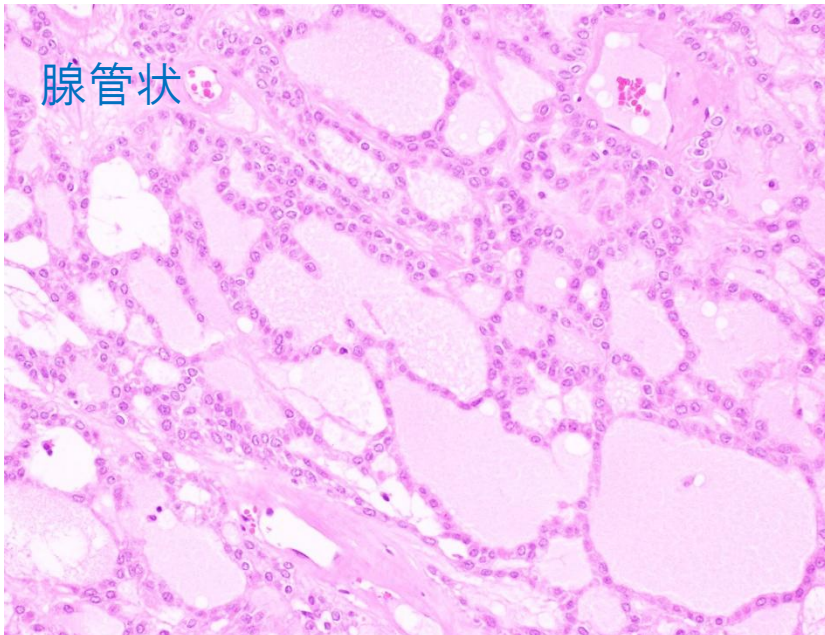
充実性



網状

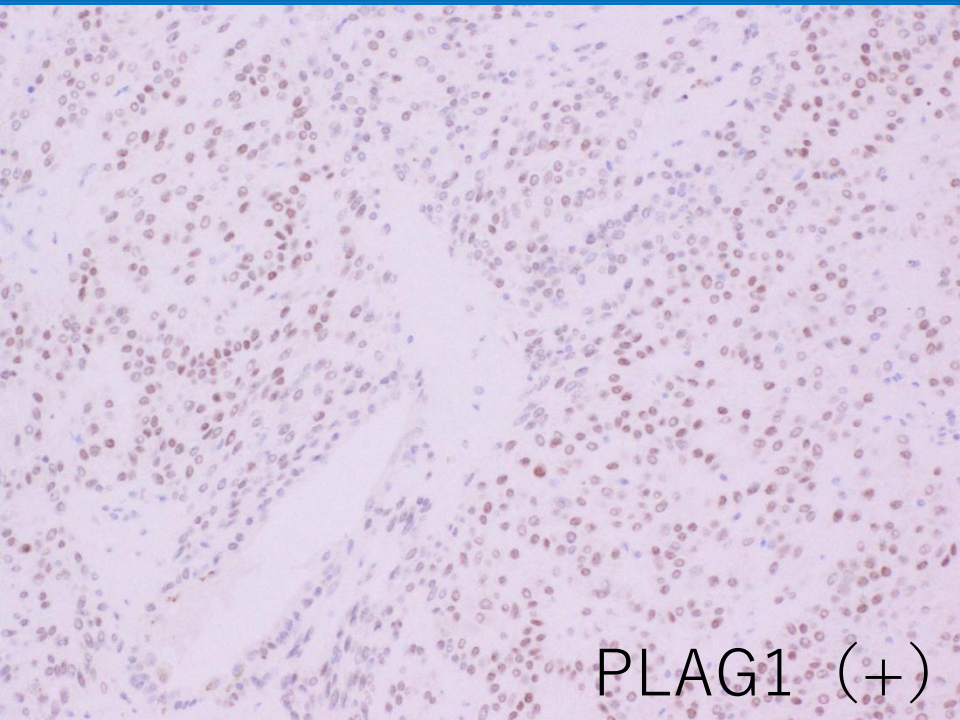
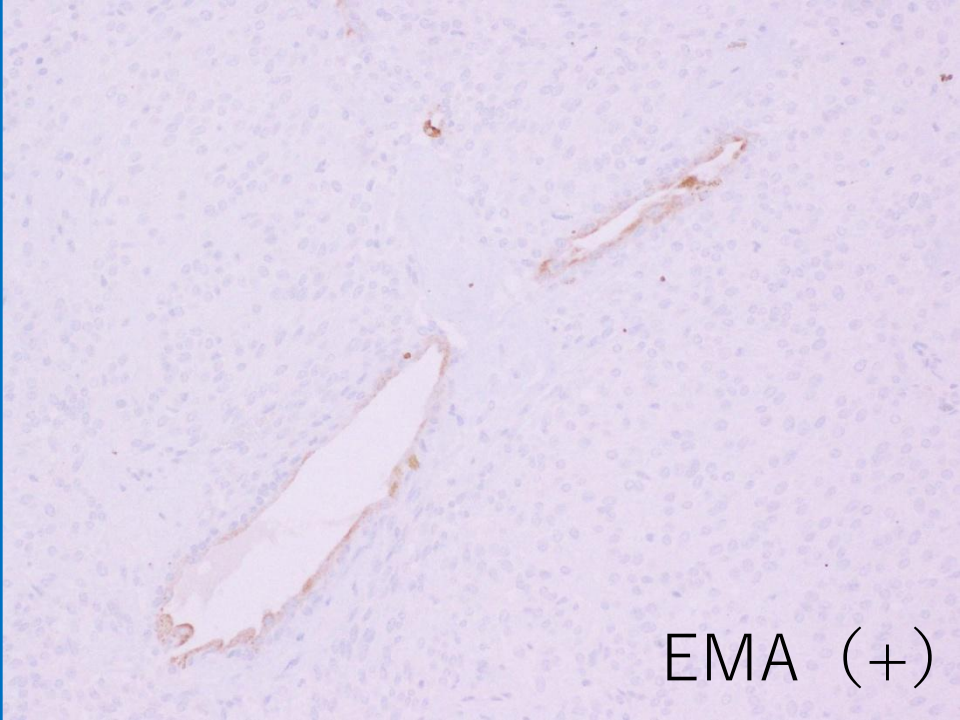
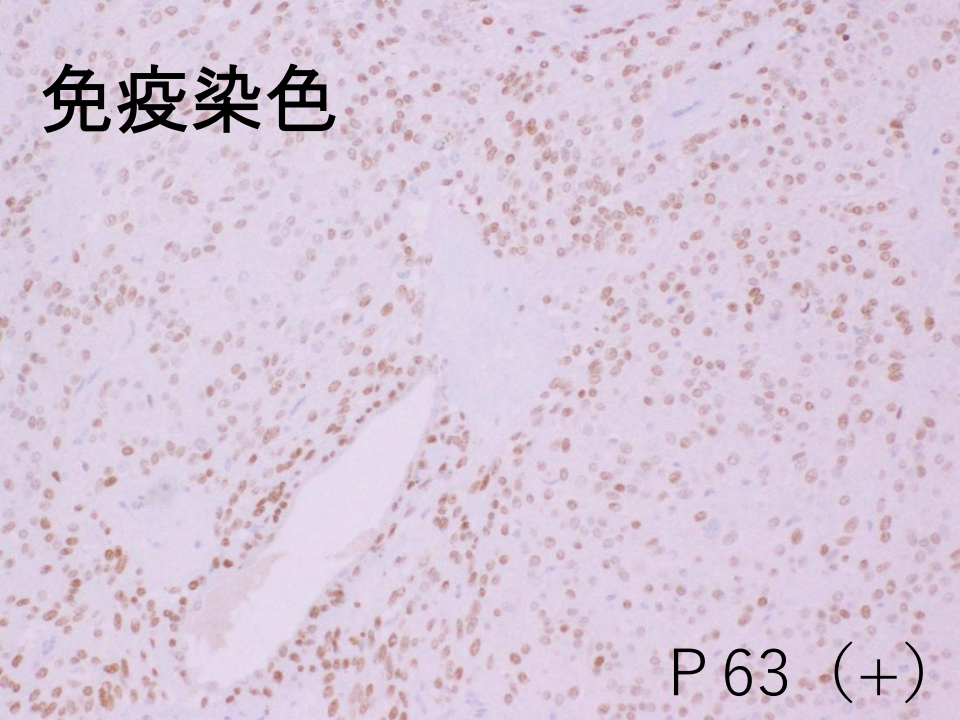


腺管状



腫瘍は、硝子性・線維性の間質性分と充実性・管状・網状の上皮成分より構成される。

免疫染色



腫瘍の大部分：

SMA(+), p 63(+), PLAG1(+)

腺上皮部分：EMA (+)

大部分はSMA陽性、p63陽性の筋上皮成分であり、ごく一部にEMA陽性の腺上皮細胞を認める。

二相性が確認され、多形腺腫と診断された。

【典型的な多形腺腫の細胞所見】

★背景に粘液腫様間質性粘液（ギムザ染色で異染性）

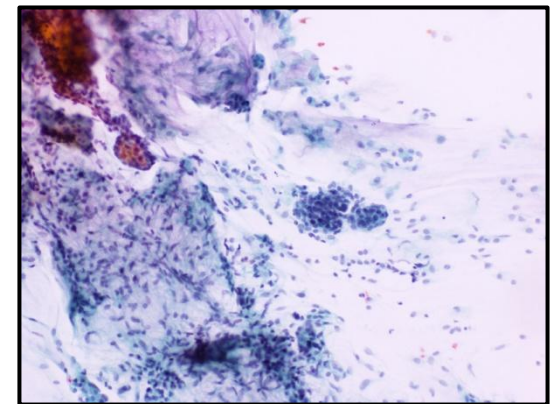
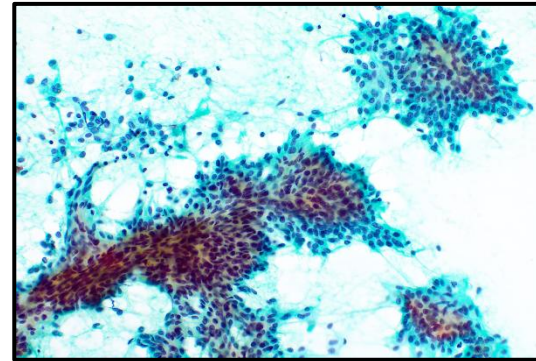
★筋上皮細胞由来と考えられる細胞

小型筋上皮細胞、紡錘形細胞、多角細胞、形質細胞様細胞、
明細胞

★腺上皮成分

★軟骨・類軟骨形成に関係する細胞

多核巨細胞、硝子小体（気質化物質）
扁平上皮化生細胞



以上の所見が観察されれば、細胞診から多形腺腫の推定が可能である。

今回の症例の細胞像を振り返ると・・・

多形腺腫の特徴的な所見は見られず、粘液腫様間質の欠如と血管増生を伴った豊富な細胞成分を認めたために多形腺腫を推定することは困難であった。

では、今回の標本上で特徴的な所見であった
樹枝状ないし乳頭状の細胞集塊が見られる耳下腺腫瘍



筋上皮種 筋上皮癌 粘表皮癌 腺房細胞癌
が挙げられる。

【鑑別】

- ・ 筋上皮腫および筋上皮癌

腫瘍性筋上皮細胞の増殖を示す疾患であり、細胞学的な特徴は多形腺腫と類似している。当疾患は、粘液腫様間質や導管上皮細胞との二相性を欠く。しかし、多型腺腫は穿刺部位によって同様の細胞像を呈することがあるため、当疾患と多形腺腫との鑑別は細胞診では困難とされている。

- ・ 粘表皮癌

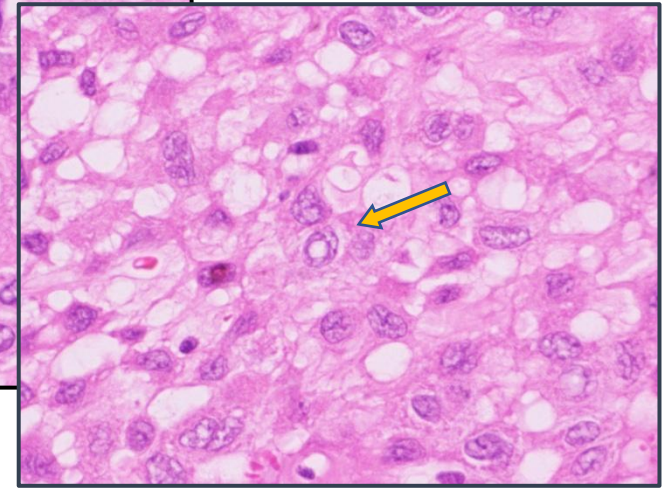
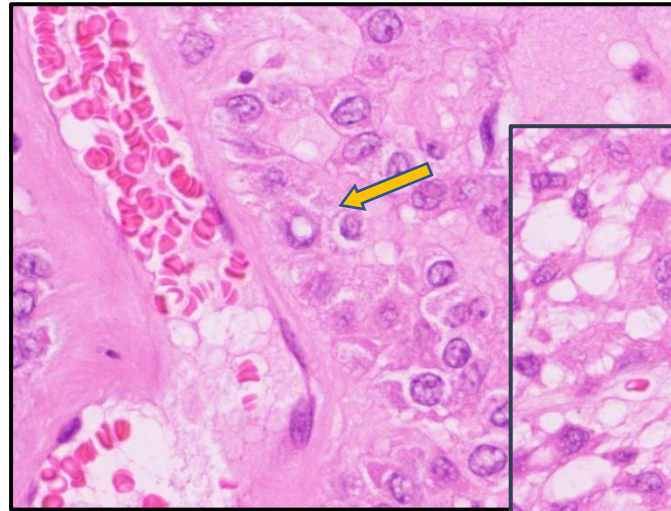
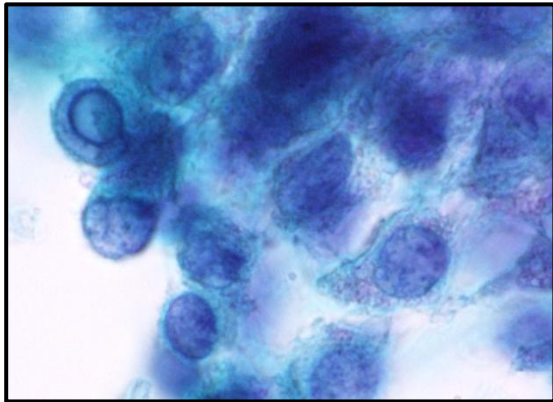
粘液細胞と扁平上皮成分細胞、その中間細胞が出現する。
当症例とは鑑別が可能。

- ・ 腺房細胞癌

細胞質に好塩基性顆粒（zymogen分泌顆粒）を有し、淡いレース状を呈する。当症例とは鑑別が可能。

以上より、多型腺腫と筋上皮腫、筋上皮癌が鑑別疾患として残る。

【一部の細胞に認められた核内細胞質封入体について】



今回、HE標本中にも核内細胞質封入体は少数確認された。

唾液腺腫瘍において、核内細胞質封入体は多形腺腫に認められた報告が数例あり、その他、筋上皮腫や唾液腺導管癌、粘表皮癌でも認められた報告がある。

よって、唾液腺腫瘍においては核内細胞質封入体の所見は良悪および組織型推定の際に特異的な所見ではないと考えられた。

まとめ

- ・ 多形腺腫は、上皮性成分と間葉系成分からなる多彩な組織像を示す。今回の多形腺腫の症例は、細胞診上で多型腺腫を推定できる特徴的な所見が見られない腫瘍性病変であった。

唾液腺腫瘍において、良悪の判定や組織型推定に繋がる特徴的な細胞所見が得られない場合は、判定においては過剰な組織型推定を行わずに「鑑別困難」or「悪性度不明な腫瘍（SUMP）」とすることが望ましいと考える。

- ・ 唾液腺穿刺吸引細胞診では、同一の腫瘍でもその採取部位によって細胞像が異なる場合がある。そのため、組織推定が困難な細胞像に遭遇した際は、多型腺腫を鑑別疾患の一つに挙げる必要があると考える。